

母性看護学実習が看護学生の描くライフコースに 与える影響と看護学生による実習評価との関係

— 実習の満足度、技術経験項目、自己評価点との相関関係 —

The effects of maternity nursing practicum on the life course
designed by nursing students and the self-evaluation
by nursing students during nursing practicum:
correlation with degree of satisfaction with practicum, the items experienced
in the practicum, and self- evaluation points

和田 佳子 藤井智恵美 岸田 泰子
Keiko Wada Chiemi Fujii Yasuko Kishida

キーワード： 母性看護学実習、看護学生、ライフコース

key words : maternity nursing practicum, nursing students, life course

要 旨

本研究の目的は、母性看護学実習体験による看護学生の描くライフコースへの影響と看護学生による実習評価との関係について検討することである。調査内容は、実習記録による実習の満足度、実習中の技術経験項目、自己評価点および、質問紙による実習後のライフコースへの影響（5件法）であった。対象者は24歳以下で、結婚・出産経験のない看護学生93名（ 20.6 ± 0.9 歳）であった。母性看護学実習が自らのライフコースへ与えた影響について、「かなりそう思う」と「少しそう思う」と肯定的に答えた学生は79名（84.9%）であった。ライフコースへの影響と実習における満足度との相関関係は見られなかった。技術経験項目と自己評価点「人間関係」とに有意な相関が認められた。周産期の家族への看護を主体とする母性看護学実習が青年期女子のライフコースに与える影響があることは予測されたが、実習における技術経験項目や自己評価点とは弱い相関関係であった。

Abstract

The purpose of this study was to assess the effects of maternity nursing practicum on the life course designed by nursing students and the self-evaluation by nursing students' during nursing practicum. We analyzed the degree of satisfaction with the practicum, clinical experiences during the practicum, and self- evaluation points of the students from nursing practicum reports. Subjects were 93 unmarried, childless nursing students aged ≤ 24 years (mean: 20.6 ± 0.9). Students were asked to rate the effect on their choice of future life course on a five-point scale based on their practicum experiences. Seventy-nine (84.9%) students answered as either "strongly agree" or "agree". The effect on life course did not correlate with the degree of student satisfaction with the practicum; however, it significantly correlated with student self-assessment in "relationship". We had predicted that the effects of nursing students' life courses in the maternity nursing practicum would lead them to mainly choose family nursing as a career choice. However, the practicum had a weak correlation with the events experienced in the practicum and the students' self- evaluation.

受付日：2014年10月10日

受理日：2015年1月21日

共立女子大学 看護学部 母性看護学

I 緒言

母性看護学は、生涯を通じた性と生殖に関する健康（リプロダクティブ・ヘルス）という視点から、女性のライフサイクル全体を通じた看護を学ぶ領域である。母性看護学における女性のライフサイクルの授業では、ライフコースを具体的な人生の特徴や家族のライフスタイルにつながる概念として講義し、看護学生は女性のライフコースの変化や女性のライフスタイルについて学ぶ。さらに、母性看護学実習では、妊娠・分娩・産褥期にある女性とその新生児を対象とし、子どもを産み育てる女性の健康とその母子を支える家族や社会について理解し、女性のライフサイクルの学びを深める。

ライフコースは、井上¹⁾によれば、「[「ライフイベント」]に伴って上昇（下降）する「ライフステージ」の一連の変化」であり、「ライフイベント」の選択の結果描かれる、人生の軌跡と定義されている。また、「ライフイベント」とは人生における出来事そのもの（経験）を点で示したもの、「ライフステージ」とは「ライフイベント」を契機とする任意の期間（線分）である。本研究で用いる「ライフコース」は、この井上の定義に従う。

一般に大学生は大学生生活でキャリアデザインを考え、その後の就職活動につなげるが、四年制の看護学生の8割が看護職を志向している²⁾。ライフプランを持つ看護学生は9割以上おり、将来の職業を意識している学生が多いという調査結果からも³⁾、看護学生は職業志向が強い。看護学生対象のライフコースに関する先行研究では、看護学生は一般の女子学生に比べ結婚・出産後も就業継続の意志を持っており⁴⁾、学生が望むライフコースは仕事と家庭の両立型と出産退職再就職型が8割～9割で、結婚・出産と仕事との両立を考えている学生が多いと報告されている^{5)~7)}。

看護学生は母性看護学実習により性役割の認識をする機会となり、実習を通じた性役割の認識構造の一つには、仕事と子育てをする母親像や、育児における分業観の自覚というライフプランの選択を描くことが含まれる⁸⁾。さらに、産科勤務や助産師希望の看護学生は実習後に「好き、楽しかった」という肯定的感情を持っていたという結果もある⁹⁾。また、母性看護学実習で看護学生が

感じる達成感・満足感の要因に、「未来の自分をイメージ」¹⁰⁾、「自己の母親像の想像」¹¹⁾があり、母性看護学実習が母性看護学への関心や学生自身の性役割への認識に影響している。母性看護学実習での体験を通して、学生自身の母性観が深まることは先行研究でいわれている。母性看護学実習で看護学生の母性意識や児に対する感情は高まる⁵⁾。分娩期看護を体験することによって、母性観を肯定的にとらえ¹¹⁾、自分自身の振り返りになり自己成長の機会となる¹²⁾。実習後には、「体験を通して母性観の深まり」、「母性看護への興味・関心」、「命の尊さと親への感謝」といった意識変化があると報告がある¹³⁾。さらに、母親とのコミュニケーションにより「看護者になる自分を意識する」、「自分自身も親になり子育てすることを想像する」という自己成長を促す機会が得られることや¹⁴⁾、実習における人間関係の相互作用から出産観や人生観を考える機会になること¹²⁾、受け持ち対象者の分娩期を共有し、対象者との良い人間関係のもとに行った看護効果が確認できることが¹⁵⁾、実習を肯定的に受け止める要因となることが報告されており、受け持ち対象者を通して実習における人間関係の効果が見出されている。

看護学生を対象にした先行研究から、母性看護学実習の体験が、実習の達成感や満足感、自身の母性観、また、人間関係に影響し自己成長につながる事が明らかになっている。以上より、今後の母性看護学教育におけるさらに効果的な教育実践への示唆を得ることを目指し、本研究は、看護学生自身のライフコースに母性看護学実習の体験が影響しているのか否か、また、具体的にどのような体験が影響しているのかについて、実習における満足度、技術経験、実習の自己評価を用いて、看護学生の描くライフコースへの影響と看護学生による実習評価との関係について検討する。

II 方法

1. 期間

平成25年5月～12月に実施した。

2. 調査対象

A 短期大学看護学科において母性看護学実習を終えた女子学生114名であった。

3. 母性看護学の概要

1) 母性看護学科目

短期大学学生は母性看護学に関する科目を、1年次に母性看護学概論(1単位30時間)、2年次に母性への医学的対応(1単位30時間)・母性看護学活動論(2単位45時間)・母性看護活動演習(1単位30時間)、3年次に母性看護学実習(2単位90時間)を履修している。

2) 母性看護学実習

母性看護学実習は、妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化と特徴を理解し、実践を通じて周産期の母子とその家族への援助に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。そして目標として、①妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過を理解し、各時期に必要な援助の実際を学ぶ、②妊婦・産婦・褥婦および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開を学ぶ、③母子とその家族との関係・退院後の生活について理解し、母子保健医療における関係機関の役割と社会資源の活用について学ぶ、④実習を通して生命の重要性や自己の母性および命について考え、専門職としての倫理的責務について学ぶ、⑤実習を通して専門職を目指す学生としての姿勢や態度が取れる、の5つを設定している。実習は2単位90時間で、3年次の5月から11月までの期間に、6か所の施設で5～6名のグループに分かれ、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を2週間でローテートする。妊娠期に関しては、実習施設により形式が異なり、分娩期は実習日数が異なる。褥婦・新生児受け持ち実習では、原則1名の褥婦および新生児を受け持ち、それぞれの看護過程展開を実施している。実習記録(受け持ち褥婦・新生児の記録、妊娠実習記録、保健指導見学記録、分娩レポート、実習終了レポート)および看護技術表(妊娠・分娩・産褥・新生児)、実習評価表(5つの実習目標から導き出した28項目からなる、自己評価と教員評価からの二方向評価)は実習終了日に提出を求めている。

4. 調査内容と方法

1) 対象者の基本属性とライフコース

すべての看護学実習終了後の12月、「自分のライフコースについて考える」をテーマに、「母性看護学実習のまとめ」の授業を実施した。そこで、学生自身のライフコース図の作成と、「母性看護学実習はあなたのライフコースに影響を与えましたか」(1「かなりそう思う」、2「少しそう思う」、3「どちらともいえない」、4「あまりそう思わない」、5「まったくそう思わない」の5件法)の問いについて、質問紙調査を実施した。学生が作成したライフコース図より、年齢、結婚歴、出産歴について抽出した。

2) 母性看護学実習における体験の内容

先行研究より、母性看護学実習に影響するといわれている、実習の満足感、分娩期の実習体験を含む具体的な実習経験内容、母性観および人間関係形成を含む達成感に相当する項目を、実習終了後に提出された記録物より選択した。まず、実習記録より実習における満足度(%)を用いた。母性看護学実習では、実習終了後に実習の満足感を比率で記載を求めている。次に、実習体験の具体的指標として、看護技術表より、総技術経験項目(項目数78)(項目ごとにI「学内知識としてわかる」、II「知識としてわかる」、III「指導のもとで実施できる」、IV「単独で実施できる」の4段階)を用いた。また、学生が受け持ち実習を実施している褥婦および新生児を選択し、褥婦・新生児の技術経験項目(項目数37)と、母性観に影響すると指摘されている、分娩の技術経験項目(項目数16)を用いた。さらに、達成感に相当する項目として、実習評価表より自己評価点の総自己評価点、実習評価表の要素の一つである看護過程(7項目)、実習評価表の項目である「受け持ち褥婦と家族との人間関係を築く(以下、人間関係)」と「自己の母性・命についての考えがいえる(以下、母性・命)」の得点を用いた。

3) 調査方法

母性看護学実習記録の分析への協力と、質問紙調査への協力の両方に同意の得られた学生に対して、「自分のライフコースについて考える」授業で実施した質問紙と、母性看護学実習における体験内容を連結し、分析に使用した。

5. 分析方法

青年期は、「終わりは明確でなく、23、24歳ころまで続く」と定義され、大学生の年齢は青年期後期に分けられる¹⁶⁾。従って、分析対象者を24歳以下とした。

実習後のライフコースへの影響と、実習の満足度、技術経験項目、自己評価点の各変数の基本統計量を求めた。ライフコースへの影響についての、1「かなりそう思う」～5「まったくそう思わない」のこれらの5件法を得点化し、「かなりそう思う」を5、「まったくそう思わない」を1として、肯定的な回答に得点が高くなるよう数を逆転させ、ライフコースへの影響得点として用いた。技術経験項目（総経験項目、褥婦・新生児項目、分娩項目）については、看護技術表より、I「学内知識としてわかる」とII「知識としてわかる」の知識レベルの項目を除き、学生が実施できた項目、III「指導のもとで実施できる」とIV「単独で実施できる」の経験数のみを選択し技術経験得点として算出した。

実習後のライフコースへの影響と、技術経験得点および自己評価点（総自己評価、看護過程、人間関係、母性・命）とのPearsonの相関係数、さらに、相関係数の有意性検定を実施した。データはExcel 2007に入力し、分析した。

6. 倫理的配慮

母性看護学実習後に口頭および文書により、研究の主旨を説明し、同意書を交わした。その際、母性看護学実習記録と質問紙を連結させて分析することを明記し、母性看護学実習記録の分析への

協力と質問紙調査への協力を区別して依頼した。さらに、不参加の場合も不利益のないこと、結果は個人が特定されない方法で取り扱い、研究以外には使用しないこと、プライバシー保護に努めることを約束した。なお、研究者の所属機関において研究倫理審査委員会の承認を受けた。（承認番号：KWU-IRBA#14056）

Ⅲ 結果

1. 学生の特徴

研究への参加協力が得られた114名の学生より、24歳以下で、結婚・出産経験のある学生および欠損値のある回答者を除外し、93名（81.6%）を分析対象とした。平均年齢は20.6 ± 0.9歳であった。また、93名中、分娩期の実習を実施できた学生は64名（68.8%）であった。

2. 実習後のライフコースへの影響と、実習の満足度・技術経験項目・自己評価点との関連

母性看護学実習が自らのライフコースへ影響を与えたかについて、「かなりそう思う」が20名（21.5%）、「少しそう思う」が59名（63.4%）、「どちらともいえない」が8名（8.6%）、「あまりそう思わない」が6名（6.5%）、「まったくそう思わない」が0名（0%）であった。（表1）

実習後のライフコースへの影響の程度、実習の満足度、技術経験項目（総経験項目得点、褥婦・新生児項目得点、分娩得点（65名））、自己評価点（総自己評価点、看護過程、人間関係、母性・命）の平均および標準偏差と範囲を表2に示した。実習の満足度の平均は87.3%（SD=16.7、範囲1-100）であった。看護技術で実施できた経験項目得点の平均は、総経験項目得点が35.5（SD=13.9、範囲0-78）、褥婦・新生児項目得点が22.3（SD=4.8、範囲0-37）、分娩項目得点が5.8（SD=4.3、範囲0-16）であった。実習の自己評価点の平均は、総評価点が84.3（SD=5.9、範囲0-100）、看護過程は26.0（SD=2.8、範囲8-32）、「人間関係」は3.9（SD=0.4、範囲1-4）、「母性・命」は3.7

表1 母性看護学実習がライフコースに与えた影響

(N=93)

	かなりそう思う	少しそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
人数	20	59	8	6	0
(%)	(21.5)	(63.4)	(8.6)	(6.5)	(0)

(SD=0.6、範囲1-4)であった。

ライフコースへの影響と実習における満足度との相関係数は0.159であった。技術経験項目との相関係数は、総経験項目得点とは0.246 ($p<0.05$)、褥婦・新生児項目得点とは0.235 ($p<0.05$)、分娩得点とは0.342 ($p<0.01$)であり、弱い相関が認められた。(表3)

また、ライフコースへの影響と、実習自己評価点との相関係数は、総自己評価点とは0.081、看護過程とは-0.046、「人間関係」とは0.321 ($p<0.01$)、「母性・命」とは0.079であり、「人間関係」に弱い相関が認められた。(表4)

Ⅳ 考察

母性看護学実習は自分のライフコースに影響を与えたかの問いに対して、「かなりそう思う」と「少しそう思う」を合わせて、8割以上の学生が「そう思う」と肯定的に回答している。女子高校生を

対象とした妊婦ふれあい体験学習による認識の変化を調査した研究では、結婚および第1子出産のライフプランを選択する者と、「将来、子どもを産み育てたいか」の問いについて肯定的に回答する者が増加している¹⁷⁾。この結果同様、学生自身のライフコースに、妊婦、産婦、褥婦、新生児を対象とする母性看護学実習の体験が影響していたと推測できる。

今回、学生の描くライフコースと実習のどのような要因と関係があるのか、母性看護学実習で体験する技術経験と母性看護学実習の自己評価点から検討した。看護技術で「実施できた」とする経験項目は、褥婦・新生児項目で約6割であり、実施できた看護技術は総経験項目と分娩項目とを比較し、褥婦および新生児の受け持ち実習時で最も高かった。母性看護学実習における技術経験は「実施・部分実施」と「見学」を合わせて6割で、「実施・部分実施」の割合が高い時期は新生児で

表2 ライフコースへの影響、実習の満足度、技術経験項目得点、自己評価点の各項目の平均と標準偏差の結果 (N=93)

	ライフコースへの影響	実習満足度	技術経験項目得点			自己評価点			
			総技術経験項目	褥婦・新生児項目	分娩項目	総自己評価	看護過程	人間関係	母性・命
平均	4.0	87.3	35.5	22.3	5.8	84.3	26.0	3.9	3.7
標準偏差	0.8	16.7	13.9	4.8	4.3	5.9	2.8	0.4	0.6
範囲	1-5	0-100	0-78	0-37	0-16	0-100	8-32	1-4	1-4

分娩項目：64名

表3 ライフコースへの影響と実習の満足度および技術経験項目得点との相関係数 (N=93)

	実習満足度	技術経験得点		
		総技術経験項目	褥婦・新生児項目	分娩項目
ライフコースへの影響	0.159	0.246	0.235	0.342
p値	n.s.	<0.05	<0.05	<0.01

上段：Pearsonの相関係数

下段：相関係数の有意性検定

n.s. (not significant)：有意差なし

分娩項目：64名

表4 ライフコースへの影響と自己評価点との相関係数 (N=93)

	自己評価点			
	総自己評価	看護過程	人間関係	母性・生命
ライフコースへの影響	0.081	-0.046	0.321	0.079
p値	n.s.	n.s.	<0.01	n.s.

上段：Pearsonの相関係数

下段：相関係数の有意性検定

n.s. (not significant)：有意差なし

あるという報告がある¹⁸⁾。今回の結果からも最も経験できた時期は「褥婦・新生児」であり、同様の結果であった。実習の自己評価点では、総評価点と看護過程は8割以上、「受け持ち褥婦と家族との人間関係を築くことができる（人間関係）」、「自己の母性・命についての考えを述べることができる（母性・命）」の項目については9割以上「述べるができる」と答える高い自己評価であった。

技術経験項目では、ライフコースへの影響と総技術経験項目、褥婦・新生児項目、分娩項目との間に相関がみられた。褥婦・新生児期および分娩期の看護は、対象者を受け持ち、看護を実践する実習である。受け持ち対象との関りを通して自己成長を促す機会が得られると報告されている¹⁴⁾。学生は実習で実際に対象者と関り、看護技術を実践できる多くの実習体験が、ライフコースをより現実的に感じることに繋がったのではないかと予測される。

自己評価点の中で弱い相関がみられたのは、「受け持ち褥婦と家族との人間関係を築く（人間関係）」の項目であった。対象者である母親との関わりから、「看護者になる自分を意識する」、「自分自身も親になり子育てすることを想像する」という自己成長を促す機会となり¹⁴⁾、実習における人間関係の相互作用から出産観や人生観を考える機会になると報告されている¹²⁾。本研究においても自己評価点の「人間関係」で弱い相関がみられたことは、実習における対象者および家族との関りが学生自身のライフコースと関係する可能性が示唆された。

母性看護学実習で体験を通して看護学生自身の母性意識、児に対する感情が高まり、命の尊さを感じるといった実習の学生自身の母性観および生命に対する考えの深まりや変化が先行研究で指摘されている^{5), 11), 13), 19), 20)}。今回の結果では、「自己の母性・命についての考えを述べるができる（母性・命）」と自己評価しているにも関わらず、ライフコースへの影響との強い相関は見られなかった。これは従来の結果通り、実習により学生自身の母性観および生命に対する考えは明確になったが、自分自身のライフコースに影響する具体的なライフプランとは結び付かなかつたからではないかと考えられる。

技術経験項目および自己評価点では、ライフコースへの影響と褥婦・家族との人間関係の評点との間に相関がみられたが、いずれの相関も弱く、母性看護学実習とライフコースには、技術経験項目と褥婦・家族との人間関係の要因が影響するのではないかという傾向にとどまった。この理由として、まず、技術経験項目と自己評価点の提出はそれぞれの母性看護学実習直後であるが、母性看護学実習が自分のライフコースへ与える影響についての問いは、全員がすべての実習が終了した時点であり、時間的な偏りが考えられる。また、技術経験項目については学生の自己申請であり、満足度および自己評価点と同じく、教員や指導者による客観的な視点による技術経験の評価ではなかった。実習の満足度および自己評価点が8～9割であったにもかかわらず、ライフコースへの影響との自己評価点との相関は弱かったことは、実践時に生じた感情の度合いが大きいほど、理性的な評価へと転換させるのは困難で感性的評価になるといわれているように²¹⁾、自己評価が個人内の客観的評価に至っていない可能性がある。

本研究では、看護学生の将来のライフコースへの影響と実習における技術経験項目や自己評価点との間には強い相関は見られなかった。これは、検討した項目が母性看護学実習の実習記録から抽出した実習評価に関するもののみであったことと、この他の要因については検討していないことが本研究の限界として挙げられる。今後は、経験項目と自己評価について、具体的に何が彼女らの描くライフコースに影響するのかを探索することが課題となる。母性看護学実習は、リプロダクティブ・ヘルスの視点から、妊娠から産褥期の女性とその子どもと家族を通して、女性のライフサイクルを学ぶ。実習の体験を通して、将来看護師として活動する彼女らがワーク・ライフ・バランスを意識し、将来を予測しながらキャリアを積むことや自らのリプロダクティブ・ヘルスを健全に保つことにもつながるものと考えられる。看護学生の将来のライフコースと実習における技術経験項目や人間関係に関する自己評価点との相関がみられたことから、技術経験と対象者との関係性を重視した母性看護学実習の展開が、これまでに指摘されている技術体験による実習における達成感^{22), 23)}や直接関わることによる対象者への理解

に加え^{13), 24)}、学生のライフコースに作用する効果的な実習になるのではないかと考えられた。

V 結語

周産期の家族への看護を主体とする母性看護学実習が青年期女子のライフコースに与える影響は大きいことが予測され、多くの看護学生がそれを自覚していた。実習における技術経験項目や自己評価点との弱い相関が認められたことから、母性看護学実習の経験と対象者およびその家族との人間関係が、看護学生の描くライフコースへ影響する傾向が示唆された。

付記

本研究の一部は、35th International Association for Human Caring Conferenceにて発表した。

引用文献

- 1) 井上智紀：ライフコースの多様化に伴う生活リスクの変化と保障ニーズ，生活経済学研究，33，1-18，2011.
- 2) 森美春，西山ゆかり，木戸久美子：四年制大学の看護学生における職業準備性，滋賀医科大学看護学ジャーナル，3(1)，55-63，2005.
- 3) 柴田文字，拜原優子：本学看護学科学生のライフプランの実態と生涯教育について，東邦大学医療短期大学紀要，15，32-45，2001.
- 4) 清水尚子，安東望美，岸田真由紀，他：大学生女子の理想のライフコースと出産・子育て環境に対する意識，京都母性衛生学会誌，16(1)，31-36，2008.
- 5) 石松尚子：看護学生のライフプランと母性意識——母性看護学学習前後の比較——，日本赤十字九州国際看護大学intramural research report (1)，76-87，2002.
- 6) 刀根洋子，及川裕子，内岡恵：ジェンダーパーソナリティと養育体験の世代間伝達——看護学生のライフコースと職業選択との関連——，母性衛生，41(4) 429-438，2000.
- 7) 刀根洋子，鈴木祐子，及川裕子，他：女性への健康支援——思春期に対する価値意識と将来の健康不安との関係——，母性衛生，42(4) 657-662，2001.
- 8) 衣川さえ子：女子看護学生の母性看護学実習を通じての性役割の認識構造，Quality Nursing，6(6)，505-512，2000.
- 9) 野田貴代，都竹友季子，出口睦雄：看護学生の母性看護学実習に対する意識調査（第2報）——実習後の気持ちと進路希望との関係——，愛知きわみ看護短期大学紀要，5，57-64，2009.
- 10) 神谷美樹，高杢裕子，小原まゆみ，他：母性看護学実習において看護学生が感じる満足感・達成感の分析，九州国立看護教育紀要，10(1)，8-15，2007.
- 11) 浅野賀子，馬場真紀，尾端博子，他：母性看護学実習で学生が興味や達成感を感じた出来事や場面の実態，中国四国地区国立病院付属看護学校紀要，7，78-83，2011.
- 12) 布施明美，本多千恵子：母性看護学実習における看護体験と学び——実習後のアンケートより——，神奈川県立よこはま看護専門学校紀要，2，48-54，2005.
- 13) 徳田真理子，甲斐寿美子：母性看護学実習における学生の意識変化，帝京平成看護短期大学紀要，17，21-25，2007.
- 14) 中島久美子，土江田奈留美，國清恭子，他：母性看護学実習体験からみた学習効果の分析，群馬保健学紀要，24，31-42，2003.
- 15) 宮本政子，野口純子，竹内美由紀，他：母性看護学実習における学生の実習意欲に関する要因——実習に対する意識と実習評価から——，母性衛生，42(1)，198-206，2001.
- 16) 井上弥：青年期 (adolescence)，山本多喜司監修，発達心理学用語辞典，初版，北大路書房，京都，178-179，1991.
- 17) 下中壽美，井上松代，玉城清子，他：「妊婦ふれあい体験学習」が高校生1年生女子のライフプラン，妊娠・出産・育児の認識度に及ぼす影響，思春期学，27(2)，2009.
- 18) 都竹友季子，出口睦雄，野田貴代：愛知きわみ看護短期大学紀要，9，7-15，2013.
- 19) 二宮寿美，村山美香，長川トミエ：大学生の母性看護学実習前・後における妊婦・褥婦・新生児のイメージ変化，宇部フロンティア大学看護ジャーナル，3(1)，31-39，2010.
- 20) 青柳美秀子，荒木こずえ，島田祥子：産婦の看護を体験することの意味——実習記録の分析から——，川崎市立看護短期大学紀要，13(1)，41-47，2008.
- 21) 丸茂美智子，阿部房子：実習体験に対して看護学生が行った看護場面の自己評価に関する研究——自己教育の観点からの検討——，千葉看護学会会誌，15(1)，18-26，2009.
- 22) 山口雅子，山内栄子：母性看護学実習，大学教育実践ジャーナル，5，27-33，2007.
- 23) 小野寺祥子，大野友子，高橋慶子，他：母性看護学実習における看護技術体験の実態と到達度についての課題，帝京大学医療技術学部看護学科紀要，2，63-72，2011.
- 24) 北林ちなみ，中山美香：母性看護学実習における学びの評価とそれに関連する因子，飯田女子短期大学紀要，28，59-70，2011.